

中山道（なかせんどう）沿いで撮影した八重桜の風景です。画面奥には青い道路標識があり、「高崎」「さいたま」など、国道17号線沿いに東京・埼玉・群馬へと連なる地名が並んでいます。この標識は広域的な移動の方向と距離を示すものですが、その手前には、東京の街路樹として植えられた八重桜が満開の状態です。

人工的に整備された道路交通の情報と、季節によって変化する植物の姿が、一つの視野の中で重なっている点が印象的でした。中山道は古くから人や物資が行き交ってきた主要な街道であり、現在も多くの車両が行き交っています。しかし実際には、このような景観の細部に目を留める余裕はあまりなく、多くのドライバーは目的地へ向かってそのまま通過していると考えられます。

そうした中で、標識の示す広い地域のつながりと、足元にある季節の変化とを同時に捉えられるこの場所には、都市の中の観察対象としての価値を感じました。

